

提出日： 2025 年 12 月 22 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文学部	教授	山口真美

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。				
	<table border="1"><tbody><tr><td>1. 2025年4月 1日 ~ 2026年3月31日</td><td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;"><div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 40px; margin: 0 auto;">3</div></td></tr><tr><td>2. 2025年9月 1日 ~ 2026年8月31日</td></tr><tr><td>3. 2025年4月 1日 ~ 2025年9月20日</td></tr><tr><td>4. 2025年9月21日 ~ 2026年3月31日</td></tr></tbody></table>	1. 2025年4月 1日 ~ 2026年3月31日	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 40px; margin: 0 auto;">3</div>	2. 2025年9月 1日 ~ 2026年8月31日	3. 2025年4月 1日 ~ 2025年9月20日
1. 2025年4月 1日 ~ 2026年3月31日	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 40px; margin: 0 auto;">3</div>				
2. 2025年9月 1日 ~ 2026年8月31日					
3. 2025年4月 1日 ~ 2025年9月20日					
4. 2025年9月21日 ~ 2026年3月31日					
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。				
	2025.4 日本科学未来館にて子どもたちの認識世界をしる参加型実験を実施 2025.5 日本科学未来館にて子どもたちの認識世界をしる参加型実験を実施 2025.6 シドニーで開催された APCV2025 に参加・発表。 2025.7 顔身体デザイン領域キックオフシンポジウムを開催(東京と大阪) 2025.7 顔身体デザイン領域若手研究会を開催(講師:玉川大学 飯島和樹研究員) 2025.8 顔身体デザイン領域若手研究会を開催(講師:大阪大学 石原准教授) 2025.8 「ままならぬ顔・もどかしい身体」刊行記念イベント「顔や身体は誰のもの」開催 2025.8 日本科学未来館にて「たんけんしよう! あなたの知らない”見た目”の世界 ～なにかモヤモヤしたこと、ないですか?」トークとワークショップを実施 2025.8 「こどもからみる不思議世界探求」プロジェクトの日本科学未来館での夏休みの 参加型実験の実施 2025.8 マインツで開催された ECV2025 に参加・発表。 2025.9 質感フォーラムで特別講演「乳児の質感知覚から顔身体インタラクションへ」 2025.9 日本心理学会第 89 回大会において企画シンポジウムを実施。 2025.9 日本視覚学会 2025 夏季大会に参加・発表。				
得られた 研究成果 について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。				
	・2025.4 「ままならぬ顔・もどかしい身体」刊行(単著、東京大学出版会) 書評多数。 ・2025.4-5 静岡新聞「科学する人」に連載。他にも 中国新聞、京都新聞、中部経済新聞、熊本日日新聞、秋田さきがけにも同じ連載が掲載された。 ・2025.6 生体の科学 2025 年 6 月号「特集:顔の科学」に顔認知の発達についてのレビューが掲載。 ・2025.6. APCV にてラボメンバーの梅川璃空氏が Student Award を受賞 ・2025.7 勁草書房より「見えない微笑み」刊行(ジョナサン・コール著の監訳を担当) ・2025.8 かわいい子は損だらけ!? ~意外と知られていない苦勞と「逆偏見」の実態に迫				

	<p>つてみた～ one: Tell the individual Color the world. https://1-one.jp/theme/t2508_038/</p> <p>・2025.9「教育と医学」9・10「AI 環境と乳児の知覚・視覚」</p>
<p>今後の 計画に ついて</p>	<p>得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。</p> <p>研究促進期間の間に学術変革領域(A)「顔身体デザイン:実践・実証・設計に基づく顔身体の深化と昇華」が採択され、この期間にキックオフシンポジウムや総括班会議など様々な研究連携の素地を作り上げることができた。また、日本科学未来館のイベントや哲学対話、書籍の発刊や、世界で3番目となる乳児を対象としたfMRI実験の準備ができた。今後は乳児を対象としたfMRI実験の本格稼働、カナダマクマスター大学の院生もまじえた共同研究や、フランスのグルノーブルアルプ大学との共同研究など新たな研究の推進が可能となる。</p>